

N市の3歳児健診の改善を目指した問診票の改訂に関する研究

本郷 一夫*¹ ・ 八木 成和*² ・ 糠野 亜紀*³

東北大学*¹ ・ 四天王寺国際仏教大学*² ・ 和歌山信愛女子短期大学*³

本研究は、N市の3歳児健診の改善を目指し、問診票の項目の改訂を目的としたものである。問診票は普段、最も児とかかわっている保護者が記入するものであり、普段の児の様子や状態を幅広く把握するためには貴重な資料である。しかしながら、保護者の認識が偏っている場合、回答に社会的望ましさが強く反映されるような場合など、児の状態を正確に把握することはできない。そこで、本研究では、より正確に児の様子や状態を把握できるように、全受診児に対して簡易発達検査を実施し、その結果との関連から問診票の項目を検討した。また、1歳6か月児健診の問診票の結果との関連から縦断的に問診票の項目についても検討した。

キーワード： 3歳児健診 1歳6か月児健診 問診票 簡易発達検査

【問題と目的】

従来、3歳児健診は、T県が事業主体であったが、1997年からN市が事業主体となった。そこで、それを契機として、それまでT県で使用されていた3歳児健診の問診票の項目の有効性を検討し、改訂することを目的として本研究は始まった。

これまでに、3歳児健診の研究に関しては、1歳6か月児健診からの追跡研究（田先・小泉・薄田・青山・今成・遠山・高波，1988；平野・岡村・赤坂・田丸，1999）があり、言語発達遅滞を把握するための指標の検討が行われてきた。また、本研究の対象となるN市では、1歳6か月児健診の問診票項目の改訂や全受診児への簡易発達検査の実施を通して、健診システムの改善と充実が行われてきた（本郷・八木，1995；1997）。N市の健診システムの改善を目指したこれまでの一連の研究では、問診票項目の改訂方法として以下の3つの観点から検討がなされてきた。第1に、各項目の通過率から検討した。通過率が95%以上の場合、通過率が高過ぎて弁別性が低いと考えた。第2に、問診票項目の合計得点との関係で各項目を検討した。第3に、全受診児に実施した簡易発達検査との関係で各項目を検討した。しかし、この3つの観点に加えて、田先他（1988）、平野他（1999）で検討されてきたように1歳6か月児健診の関連からも各項目の検討をする必要があると考えられる。そこで、本研究では、従来から使用されていた発達にかかわる項目に新たに項目を追加し、上記の4つの観点から各項目の妥当性を検討し、3歳児健診問診票項目の改訂を目指すことを目的とする。

【方法】

1. 対象者： N市で1997年4月から1998年1月までの間に実施された3歳児健診を受診した児377名を対象とした。男児は187名(49.6%)、女児は190名(50.4%)であった。対象となった377名の属性をTABLE 1に示した。また、N市で1995年5月以降の1歳6か月健診を受診したのは491名であり、その後、3歳児健診も受診した児は329名(67.0%)であった。

2. 研究手続き：

(1) これまで3歳児健診の際に使用されていた問診票の発達に関わる6領域31項目を分析対象とした。

(2) 全受診児に対して「簡易発達検査」を実施した。「簡易発達検査」は新版K式発達検査(嶋津, 1985)を参考にして、以下の5課題から構成した。第1に、「A. 姓名・性別の回答」であり、姓、名、性別を答えてもらう課題である。第2に、「B. 積み木の見立て」であり、3つの積み木を使用してトラックの見立てを行う課題である。第3に、「C. 形の弁別」であり、様々な図形が書かれた図版から指定した図形を選択させる課題である。第4に、「D. 長短・大小比較」であり、異なる長さ(大きさ)の描かれた2枚の絵カード(鉛筆とりんご)を示し、長い方が短い方(大きい方が小さい方)を尋ね、選択させる課題である。第5は、「E. 絵の名称」であり、絵カードを提示し、名称を答えさせる課題である。

(3) 1歳6か月健診の問診票の項目中「運動」、「言語」、「対人関係」、「視覚」、「聴覚」、「その他」の6領域(各5項目)30項目を分析対象とした。

(4) 新たに14項目を作成し、1997年11月から1998年1月までに3歳児健診を受診した138名の子どもに実施した。男児74名(53.6%)、女児64名(46.4%)であった。

TABLE 1 3歳児健診を受診した377名の児の特徴

性別	男児	187名 (49.6%)	女児	190名 (50.4%)
月 齢	40カ月以下	27名 (7.2%)	41カ月	108名 (28.6%)
	42カ月	206名 (54.7%)	43カ月	28名 (7.4%)
	44カ月以上	8名 (2.1%)		
出生順位	第1子	175名 (46.4%)	第2子	139名 (36.9%)
	第3子	55名 (14.6%)	第4子	6名 (1.6%)
	第5子	2名 (0.5%)		
出生時体重	2000g未満	2名 (0.5%)	2000~2500g	17名 (4.5%)
	2501~4500g	353名 (93.7%)	4501g以上	0名 (0%)
	未記入	5名 (1.3%)		
在胎週数	36週以下	10名 (2.7%)	37~42週	344名 (91.2%)
	43週以上	1名 (0.3%)	未記入	22名 (5.8%)
集団生活の経験の有無	あり	242名 (64.2%)	なし	135名 (35.8%)
弟 妹 の 有 無	いる	127名 (33.7%)	いない	250名 (66.3%)
父 親 の 年 齢	平均 33.89歳	SD=5.30	レンジ21~49歳	N=361
母 親 の 年 齢	平均 31.44歳	SD=4.35	レンジ21~48歳	N=371

【結果と考察】

1. 3歳児健診の問診票項目の分析

TABLE 2には377名の3歳児健診問診票の31項目の通過率を示した。全体として31項目中、通過率が95%以上の高い項目は、23項目(74.2%)であった。また、「単語をいくつか話しますか」といった項目の通過率は100%であった。

次に、各項目で「はい」に1点、「いいえ」に0点を与え、得点化した。逆転項目は、13項目あり、TABLE 2の各項目末に*印を付して示した。領域ごとに、平均得点を算出した結果、①「手・足・体の動き」(項目番号1～6の6項目)は平均5.90(SD .36、レンジ3～6)であった。②「視覚」(項目番号7～9の3項目)は平均2.66(SD .49、レンジ1～3)であった。③「聴覚」(項目番号10～15の6項目)は、平均5.67(SD .62、レンジ3～6)であった。④「ことば」(項目番号16～21の6項目)は、平均5.60(SD .65、レンジ3～6)であった。⑤「対人関係」(項目番号22～27の6項目)は、平均5.92(SD .33、レンジ3～6)であった。⑥「その他」(項目番号28～31の4項目)は、平均3.55(SD .52、レンジ2～4)であった。最後に、全31項目の合計得点の平均値は29.29(SD 1.51、レンジ21～31)であった。この得点からM-1SD以上、M-1SD～M-2SD、M-2SD以下を基準にして3群に分けた。それぞれA群342名、B群19名、C群16名であった。

2. 3歳児健診の簡易発達検査の分析

3歳児健診の全受診児に実施した「簡易発達検査」の結果は次の通りである。健診中に眠るなどの理由で検査を実施できなかった子どもが3名いた。そこで、この3名を除いた374名の結果を示した。「A. 姓名・性別」は、自分の姓、名、性別のそれぞれを回答すれば、各1点として得点化した。合計3点となる。平均値(SD)は2.45(.92)であり、満点者は250名(70.3%)であった。「B. 見立て」は、3つの積み木を使用してトラックの見立てができれば1点として得点化した。平均値(SD)は.97(.18)であり、満点者は356名(95.2%)であった。「C. 形の弁別」は、6試行あり各1点として得点化した。合計6点となる。平均値(SD)は5.53(1.01)であり、満点者は268名(71.7%)であった。「D. 長短・大小比較」は、長短比較6試行と大小比較6試行あり、正答ならば各1点として得点化した。合計12点となる。平均値(SD)は10.65(2.60)であり、満点者は258名(69.0%)であった。「E. 絵の名称」は、12試行あり、正答ならば各1点として得点化した。合計12点となる。平均値(SD)は11.32(1.90)であり、満点者は265名(70.9%)であった。発達検査5課題の合計得点の平均値(SD)は、30.91(4.98)であり、満点者(34点)は113名(30.2%)であった。この得点からM-1SDとM-2SDを基準にして3群に分けた。それぞれH群344名、M群17名、L群13名であった。

TABLE2 3歳児健診問診票の分析対象31項目の全体と各群別の通過率(%)

項目 番号	項目内容 群分類 対象人数	全体	3歳児健診問診票			3歳児健診発達検査			1歳6ヶ月児健診問診票		
		全体	A群	B群	C群	H群	M群	L群	a群	b群	c群
		377	342	19	16	344	17	13	276	38	15
#1	20～30cmの高さからとびおろすことができますか。	99.2	99.4	100.0	93.8	99.4	100.0	92.3	99.3	100.0	93.3
#2	片足で立つことができますか。	98.4	98.5	100.0	93.8	98.3	100.0	100.0	98.6	97.4	93.3
#3	足を交互に出して階段を昇れますか。	99.2	99.1	100.0	100.0	99.1	100.0	100.0	99.6	97.4	93.3
#4	鉛筆・クレヨンできれいなマルをかきことができますか。	96.8	97.4	94.7	87.5	96.8	100.0	92.3	97.5	92.1	86.7
#5	ハサミを使って紙を切ることができますか。	98.1	99.4	84.2	87.5	98.0	100.0	100.0	99.3	97.4	93.3
6	今までにできていた動作がだんだんできなくなってきましたか。*	98.1	98.2	94.7	100.0	98.0	100.0	100.0	97.8	100.0	100.0
7	目が寄ることがありますか。*	98.9	99.1	94.7	100.0	98.8	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0
8	目が外や上にずれることがありますか。*	98.7	99.1	89.5	100.0	98.8	100.0	92.3	98.9	97.4	100.0
9	テレビを見る時に近くで見ますか。*	68.2	72.5	36.8	12.5	69.2	47.1	61.5	72.5	60.5	53.3
10	中耳炎に2回以上かかったことがありますか。*	89.1	89.8	78.9	87.5	88.4	100.0	92.3	89.1	89.5	100.0
11	ふだん口をあけて息をしていたり、鼻汁や息づまりがありますか。*	94.7	96.5	84.2	68.8	95.1	94.1	84.6	96.4	94.7	80.0
12	テレビの音をふつうより大きくして聞きますか。*	96.3	98.0	73.7	87.5	95.9	100.0	100.0	96.4	97.4	93.3
#13	話しことばがおかしい(おきている)と思いますか。*	93.9	97.4	84.2	31.3	95.3	82.4	69.2	96.0	86.8	80.0
14	家族の中に耳の聞こえの悪い方がいますか。*	93.9	95.3	89.5	68.8	93.9	94.1	92.3	95.7	84.2	93.3
15	お母さんはこのお子さんの妊娠中に高い熱の病気とか風しんおたふくかぜにかかったことがありますか。*	98.7	98.5	100.0	100.0	98.8	94.1	100.0	98.2	100.0	100.0
16	単語をいくつか話しますか。	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
#17	「パパ カイシャ イッタ」など簡単なおしゃべりができますか。	99.7	100.0	100.0	93.8	99.7	100.0	100.0	100.0	100.0	93.3
#18	自分の氏名が言えますか。(例 トクシマ・ハナコ)	97.1	99.1	89.5	62.5	98.0	94.1	76.9	98.9	94.7	86.7
#19	発音をはっきりしなかったり、何を言っているのかわからないことがありますか。*	79.0	84.8	31.6	12.5	80.5	64.7	61.5	83.3	63.2	66.7
#20	周囲の会話を理解できますか。	99.5	99.7	100.0	93.8	99.7	100.0	92.3	99.6	97.4	100.0
#21	最初の音がつまったり、くり返したりすることがありますか *	84.9	87.1	57.9	68.8	84.0	94.1	92.3	83.3	84.2	100.0
22	他の子どもに関心を示しますか。	99.5	99.4	100.0	100.0	99.7	100.0	100.0	99.6	97.4	100.0
#23	子ども同士で遊んでいますか。	96.0	97.1	94.7	75.0	96.8	94.1	84.6	96.7	89.5	93.3
#24	ごっこ遊び(電話ごっこ、ままごと等)をしますか。	98.9	99.1	100.0	93.8	98.8	100.0	100.0	98.9	100.0	93.3
#25	自分で作りたいのにできないとき、親や周りの人に「作って」と言いますか。	99.5	99.7	100.0	93.8	99.7	100.0	92.3	100.0	97.4	93.3
#26	相手の目を見て会話ができますか。	99.5	99.7	100.0	93.8	99.7	100.0	92.3	99.6	97.4	100.0
#27	自分の興味のあることに集中できますか。	98.4	99.4	89.5	87.5	98.3	100.0	100.0	98.6	97.4	93.3
#28	気になるくせがありますか。*	57.0	59.9	26.3	68.8	57.0	64.7	53.8	62.0	44.7	53.3
#29	はしやスプーンを使って、食事をするすることができますか。	99.5	100.0	94.7	93.8	99.4	100.0	100.0	100.0	97.4	93.3
#30	簡単なあいさつができますか。	99.5	99.7	100.0	93.8	99.7	100.0	92.3	100.0	97.4	93.3
#31	簡単な服は脱いだり、着たりできますか。	98.7	99.1	100.0	87.5	99.1	94.1	92.3	99.3	100.0	100.0

ただし、項目末に付した*は逆転項目を示している。また、項目番号の前に付した#は改訂後採用した項目を示している。

TABLE3 1歳6か月児健診問診票30項目の通過率(%) (N=329)

項目内容	通過率
「運動」領域 M=4.72 (SD=.66)	
1 平地ならば、すぐ転んだり、尻もちをついたりせずにあるけますか。	97.0%
2 手をひくと階段を昇ることができますか。	96.4%
3 鉛筆を持ってなぐりがきをしますか。	96.7%
4 積み木を二つ三つ積み重ねることができますか。	88.4%
5 スプーンやフォーク等使って食物を口へ運べますか。	93.9%
「言語」領域 M=4.58 (SD=.76)	
6 絵本を見ながら何かしきりに言っていますか。	96.7%
7 「ブーブーはどこ」「パパはどこ」などとたずねると、そちらを見たり、指さしたりしますか。	97.3%
8 「ブーブー」「マンマ」など意味のある片言をいいますか。	96.4%
9 「新聞を持ってきて」など、言葉だけの簡単ないつけを実行できますか。	94.5%
10 「メ」「クチ」「ミミ」など、たずねると指させますか。	73.3%
「対人関係」領域 M=4.84 (SD=.39)	
11 身近な人のしぐさのまねができますか。	97.6%
12 話しかけると目をあわせますか。	100.0%
13 相手になって遊んでやると喜びますか。	100.0%
14 子どもの中にまじって、ひとりで機嫌よく遊びますか。	92.7%
15 親又は家族がいてもいなくても無頓着ですか。*	93.6%
「視覚」領域 M=4.97 (SD=.25)	
16 よく見えていると思いますか。	99.7%
17 目つきや目の動きが悪いと思いますか。*	99.1%
18 極端にまぶしがりますか。*	98.8%
19 ものを見る時、目を細めますか。*	99.4%
20 斜視と言われたことがありますか*	99.7%
「聴覚」領域 M=4.85 (SD=.43)	
21 こちらの話しかけに応じないので、耳が悪いのかと心配したことがありますか。*	96.7%
22 小さな声で呼んでも振り向きませんか。	98.2%
23 車のクラクションやパトカー・救急車など遠くの音に気づきませんか。	97.0%
24 隣の部屋(子どもから見えない所)から身近な人が呼ぶと、返事をしたり、来たりしますか。	99.4%
25 電話が鳴ると、指さしたり、電話ののところへ行ったりしますか。	93.9%
「その他」領域 M=4.12 (SD=.87)	
26 理由もなく、奇妙な発声をしますか。*	93.0%
27 特定のものがなくなるとひどく機嫌が悪くなりますか。*	71.1%
28 服を着替えさせるとき、自分からその姿勢をとりますか。	91.8%
29 よく寝ますか。	90.9%
30 困った行動やくせがありますか。*	65.0%

ただし、*のついた項目は、逆転項目である。

3. 1歳6か月児健診の問診票の分析

TABLE3に1歳6か月児健診の問診票の30項目の通過率を示した。30項目中、通過率が95%以上の項目は、18項目であった。このうち、通過率が100%の項目は2項目であった。次に、各項目で「はい」と回答したものを1点、「いいえ」と回答したものを0点として得点化した。逆転項目は、9項目あり、TABLE3の各項目末に*を付して示した。各領域別(6領域各5項目)と全項目の合計得点を算出した結果、平均値(SD、レンジ)は「運動」4.72

TABLE4 新たに追加した14項目の全体と各群別の通過率(%)

項目 番号	項目内容 群分類 対象人数	全体 138	3歳児健診問診票			3歳児健診発達検査			1歳6ヶ月児健診問診票		
			A群	B群	C群	H群	M群	L群	a群	b群	c群
#1	「大きい/小さい」といった言葉の意味がわかりますか。	97.8	98.4	100.0	87.5	98.4	100.0	85.7	100.0	89.5	100.0
#2	「長い/短い」といった言葉の意味がわかりますか。	91.3	91.8	100.0	75.0	95.2	60.0	42.9	93.7	78.9	100.0
3	自分の鼻・髪・歯・舌・へそ・爪を尋ねられると指せますか。	99.3	99.2	100.0	100.0	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
#4	「～はどこ」と尋ねると言葉や指さしでその場所を示しますか。	99.3	99.2	100.0	100.0	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
#5	男の子か女の子か尋ねたときに正しく答えられますか。	90.6	92.6	75.0	75.0	93.5	100.0	42.9	93.7	78.9	100.0
6	「きれいね」「おいしいね」などの自分の気持ちを表す表現をしますか。	99.3	99.2	100.0	100.0	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
7	何か欲しいものがあるとき、人さし指で指さして要求しますか。	97.8	97.5	100.0	100.0	97.6	100.0	100.0	97.9	100.0	100.0
8	父母の折るのをまわて折り紙を半分におこなうことができますか。	92.8	94.3	75.0	87.5	92.7	100.0	85.7	93.7	100.0	100.0
9	父母の言葉使いや動作のまねをすることがありますか。	99.3	99.2	100.0	100.0	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
#10	うがいをする時、飲み込まないでブクブクができますか。	91.3	92.6	100.0	62.5	93.5	100.0	57.1	93.7	78.9	75.0
11	自分の思いどおりにならないと、よくかんしゃくをおこしますか。*	29.0	32.0	12.5	0.0	28.2	20.0	28.6	29.5	26.3	100.0
#12	新しい場面や物には、すぐになじめないところがありますか。*	43.5	41.8	75.0	37.5	43.5	80.0	28.6	44.2	42.1	50.0
#13	絶えず動き回り、どこかに勝手にいってしまうことがありますか。*	60.1	63.9	37.5	25.0	64.5	0.0	14.3	64.2	47.4	50.0
#14	表情が乏しいと感じることがありますか。*	96.4	96.7	100.0	87.5	96.0	100.0	100.0	98.9	84.2	100.0

ただし、項目末に付した*は逆転項目を示している。また、項目番号の前に付した#は改訂後採用した項目を示している。

(SD .66、レンジ1～5)、「視覚」4.97 (SD .25、レンジ2～5)、「聴覚」4.85 (SD .43、レンジ2～5)、「言語」4.58 (SD .76、レンジ1～5)、「対人関係」4.84 (SD .39、レンジ3～5)、「その他」4.12 (SD .87、レンジ1～5)であった。30項目の合計得点の平均値は28.08 (SD 1.90、レンジ14～30)であった。この得点からM-1SDとM-2SDを基準にして3群に分けた。それぞれa群276名、b群38名、c群15名であった。

4. 新たに追加した14項目の分析

1997年11月から1998年1月までに3歳児健診を受診した138名の子どもに新たに追加した14項目を実施した。逆転項目は、4項目あり、TABLE4の各項目末に*を付して示した。新たに追加した14項目の通過率をTABLE4に示した。14項目中、通過率が95%以上

の項目は、7項目であった。次に、この138名について上記の3歳児健診問診票合計得点、3歳児健診簡易発達検査合計得点、1歳6か月児健診問診票合計得点の各平均値とSDからM-1SDとM-2SDを基準にして3群に分けた。

追加14項目の各群の人数は、3歳児問診票では、A群(28点以上)122名、B群(27点)8名、C群(26点以下)8名であった。次に、3歳児発達検査では、H群(26点以上)124名、M群(21～25点)5名、L群(20点以下)7名であった。最後に、1歳6か月問診票では、a群(27点以上)95名、b群(25～26点)19名、c群(24点以下)4名であった。追加14項目の各群別の通過率をTABLE 4に示した。

5. 3歳児健診の問診票項目の改訂

問診票の項目の選択基準を次のように設定した。第1に、通過率が100%の項目は弁別力がないと考え、除外することにした。第2に、A群>B群>C群、H群>M群>L群、a群>b群>c群のいずれかの順に通過率が減少していることとした。第3に、各領域の項目数が均等になることとした。ここで、領域については、「視覚」と「聴覚」の領域を削除した。代わりに、言語の発達を重視し、従来のことばの領域は5項目であったのをことばの発語面と理解面の2つの領域に分けて各5項目からなる領域を設定した。また、社会生活上の適応面を考慮して、社会性の領域を設定した。以上のことから領域内容として従来の領域内容であった「手・足・体の動き」、「視覚」、「聴覚」、「ことば」、「対人関係」、「その他」の6領域から、「ことば」を「ことば・発語」と「ことば・理解」に分け、「社会性」を加えて6領域とすることにした。

第1の基準から、「単語をいくつか話しますか」の1項目を除外した。次に、新たに考えた6領域の内容に関係する項目を第2の基準から抽出した。追加14項目からは4項目抽出された。すなわち、『長い／短い』といった言葉の意味がわかりますか、「男の子か女の子か尋ねたときに正しく答えられますか」、「うがいをする時、飲み込まないでブクブクができますか」、「絶えず動き回り、どこかに勝手にいってしまうことがありますか」(逆転項目)であった。同様に、旧31項目からは13項目抽出した。以上の結果から第2の基準から合計17項目抽出した。

第2の基準から抽出できた項目が17項目しかなかったため、領域内容と各領域の項目数から再度検討した。その際、最も得点が低い群とその他の群との弁別が重要であると考え、3つのうち1つ以上でA群≧B群>C群、H群≧M群>L群、a群≧b群>c群のように通過率が変化していることとした(A群≧B群、H群≧M群、a群≧b群は5%以内とした)。この基準に従って、追加14項目からは2項目、旧31項目からは5項目抽出された。合計7項目抽出された。

次に、全体の通過率が90%未満で低く、C群、L群、c群のどれか1つの群で通過率が70%以下の項目を抽出した。この基準に従って追加14項目から1項目、旧31項目からは

2項目抽出された。合計3項目抽出された。

以上の結果、27項目が抽出された。旧31項目の中の項目番号1、2、3、4、5の5つの項目から「手・足・体の動き」の領域を構成した。旧31項目の中の項目番号13、17、18、19と追加14項目の中の項目番号5の5つの項目から「ことば・発語」の領域を構成した。旧31項目の中の項目番号20と追加14項目の中の項目番号1、2の3つの項目から「ことば・理解」の領域を構成した。旧31項目の中の項目番号23、24、25、26と追加14項目の中の項目番号14の5つの項目から「対人関係」の領域を構成した。旧31項目の中の項目番号29、30、31と追加14項目の中の項目番号10の4つの項目から「社会性」の領域を構成した。旧31項目の中の項目番号21、27、28と追加14項目の中の項目番号12、13の5つの項目から「その他」の領域を構成した。

ところで、以上の構成では第3の基準である「領域内容と各領域の項目数が均等になること」が「ことば・理解」と「社会性」の2つの領域で満たされていない。この2つの領域は3歳児に対する項目の改訂上必要に迫られて新たに考え出された領域である。そこで、この2つの領域に関する項目についてさらに検討した。まず、分析対象の項目のうち、通過率から見ると群別の違いが明確でないが、項目の内容が関連することを重視して検討した。その結果、「ことば・理解」に関して、追加14項目中の『～はどこ』と尋ねると言葉や指さしでその場所を示しますか』の項目がこの領域に入る内容であると考え選択した。

次に、分析対象の項目の中に適切な項目が見られないため、新たに項目を追加した。「ことば・理解」については、発達検査などを参考に『赤・青・黄・緑』がわかりますか』を「社会性」については同様に『顔を一人で洗いますか』を選択して付け加えた。以上の結果から、6領域30項目の項目を構成した。しかしながら、最初に設定した3つの基準を満たすだけの十分な項目を見出すことができたとは言い難い。今後、改訂された項目について簡易発達検査の結果や1歳6か月児健診の結果との関連からさらに検討を加える必要があると考えられる。

【文 献】

- 平野道子・岡村令子・赤坂悦子・田丸尚美 1999 言語発達遅滞児を把握するための1歳6ヶ月児健診における指標の検討～3歳児健診結果との関連から～ 小児保健研究, 58, 4, 472-478.
- 本郷一夫・八木成和 1995 1歳6か月健診の改善に関する研究(1)－鳴門市における問診票の改訂について－ 鳴門教育大学研究紀要(教育科学編), 10, 221-230.
- 本郷一夫・八木成和 1997 鳴門市の1歳6か月健診の改善に関する研究－全健診児に対する「簡易発達検査」の導入結果を中心に－ 発達障害研究, 19, 1, 72-80.
- 嶋津峯眞監修 生澤雅夫編 1985 新版K式発達検査法 ナカニシヤ出版.
- 田先由紀子・小泉毅・薄田祥子・青山雅子・今成京子・遠山和美・高波厚子 1988 言語

遅滞児の1歳6ヶ月児健診から3歳児健診までの追跡研究—1歳6ヶ月児健診時の13項目のチェックリストと3歳児健診時の発達障害との関係— 新潟大学教育学部紀要, 30, 2, 255-262.